

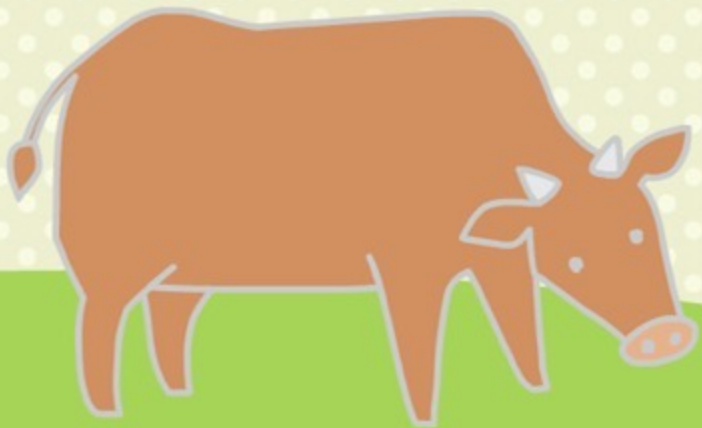
ニッポンの

いさん
農業遺産





いさん
農業遺産とは？



いさん 農業遺産とは

ちいき 地域の人々が農業、林業、漁業を営む中で独自に築き、長い間守り続けてきた知恵や工夫、
ふうけい 風景、その土地特有の文化、生き物たち。

これらを未来に受け継いでいくためにつくられた制度が農業遺産です。



山形県最上川流域



三重県尾鷲市、紀北町



三重県鳥羽・志摩地域



島根県奥出雲地域



山梨県峡東地域



熊本県阿蘇地域

例 1 : 山形の紅花がつなぐ知恵・文化

いさん もがみがわりゆういき
日本農業遺産 山形県最上川流域

れき し でん とう 歴史と伝統がつなぐ山形の「最上紅花」

ゆいいつ けう せんしよく かこう
～日本で唯一、世界でも稀有な紅花生産・染色用加工システム～

ちいき
この地域では、450年以上前
より紅花生産と染色用加工技
術を受け継いでいる、世界的
にも珍しい地域です。



例1：山形の紅花が^{べにばな}つなぐ^{ちえ}知恵・文化

でんとう 伝統の技術：染色用の素材「紅餅」をつくる工程



1 花びらの^つ摘み取り(7月)



2 水洗いした後、日かげで2～3日^{はっこう}発酵させる(黄色から赤色に変化する)



3 ^{うす きね}臼と杵でもちのようについてペースト状にする



4 3cmほどに丸めてせんべいのように^つぶす



5 風通しの良い日なたで^{かんそう}乾燥させると
^{べにもち}「紅餅」の完成



出荷

江戸時代には、お米の100倍の^{かち}価値があった

例 1 : 山形の紅花が^{べにばな}つなぐ^{ちえ}知恵・文化

できた^{せんりょう}染料で糸を^そ染め、織り上げた^お着物は日本の^{でんとうてき}伝統的な^{ぎしき}儀式の^{いしやう}衣装として今も使われています。

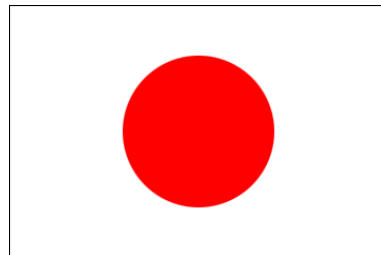


一大生産地 ^{しらたかまち}山形県白鷹町のシンボル「^{まんよう}万葉からの^{いざない}誘」



七五三

^{こんれい}婚礼



^{ほうりつ}日本の法律で、日の丸の赤い部分（^{にっしやう}日章）は紅色と定められています。

^{こっき}（「国旗及び国家に関する法律」日章旗の制式）

例 2 : 掛川^{かけがわ}の茶畑^{はぐく}が育む生物多様性

世界農業遺産^{いざん} 静岡県掛川周辺地域^{しゅうへんちいき}

「静岡^{ちやぐさば}の茶草場農法」



例 2 : 掛川の茶畑が育む生物多様性

「茶草場農法」とは、毎年秋から冬にかけて茶畑の周りにあるススキやササを刈取り、乾燥させ、茶畑に敷くことで美味しいお茶を育てる農法で、この地域では160年続いています。お茶づくりに使う草を刈るためにあえて残した場所が「茶草場」です。

～茶草場農法の流れ～

茶畑のすぐ近くに点在するススキやササの茶草場



1年に1度、秋から冬にかけて草を刈り、乾燥させる



乾燥させた草を畑に敷く
(10ha当たり約680kgの草を敷き詰める)



例 2 : 掛川^{かけがわ}の茶畑^{はぐく}が育む生物多様性

草地は放っておくと次第に森林^かに変わってしまいます。しかし、草を刈り取り^か適度^{てきど}に人の手が入ること
で草地の状態^{いじ}が維持されるため、草地^{くさち}でしか生きられない希少な^{きしょう}動植物が数多く生息できます。

カケガワフキバツタ



羽^{たいか}が退化して飛^とべないバツタで、掛川市^{しゅうへん}周辺だけに生息する。

フジタイゲキ



静岡県^{ぜつめつ}だけに見られる絶滅^{きぐしゆ}危惧種。

おいしい^{おい}お茶を作るための農家の取組が、豊かな^{ゆた}生きものの命を育んでいます。

国内の農業遺産地域

農業遺産には
世界農業遺産と
日本農業遺産の2種類が
あります。

世界農業遺産 13か所

国際連合食糧農業機関
(FAO)によって認定さ
れています。世界には
23ヶ国72地域あります。

日本農業遺産 22か所

日本の農林水産大臣が
認定します。

(令和4年11月現在)



世界農業遺産の認定基準

① 食料および生計の保障

地域の農林水産業システムによって食料が生産され、農業を営む人々が生計を立てていること

② 農業生物多様性

地域の農林水産業システムによって、多様な生物が育まれていること

③ 地域の伝統的な知識システム

農林水産業を営むうえでの知識、技術などが維持されていること

④ 文化、価値観および社会組織

農林水産業にともなう文化や風土、社会の組織などが維持されていること

⑤ ランドスケープおよびシースケープの特徴

長年にわたる人々の農林水産業の営みによりつくられる景観がすぐれていること

日本農業遺産に認定されるには、世界農業遺産の認定基準にさらに3つの条件が必要

⑥ 変化に対するレジリエンス

自然災害などの環境の変化に対して、高い「回復力」「復元力」があること

⑦ 多様な主体の参画

地域住民だけでなく、様々な人々の参加によって独創的な農林水産業システムを受け継いでいること

⑧ 6次産業化の推進

地域ぐるみの6次産業化などで地域を活性化させ、農林水産業システムの保全を図っていること

6次産業化とは

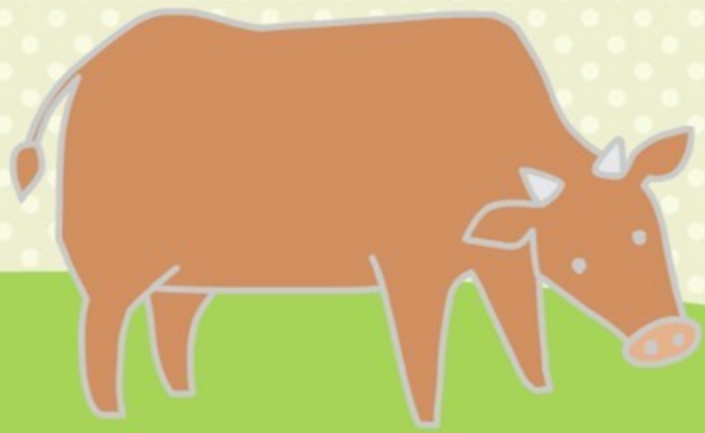
生産物の価値を上げるため、農林水産業を営む人々が、農畜産物・水産物の生産だけでなく、食品加工（2次産業）、流通・販売（3次産業）にも取り組み、それによって農林水産業を活性化させ、地域の経済を豊かにしていこうとするものです。



漁師が琵琶湖でとった魚を佃煮に加工し、販売している。（琵琶湖 沖島漁業組合「湖島婦貴(ことぶき)の会」）



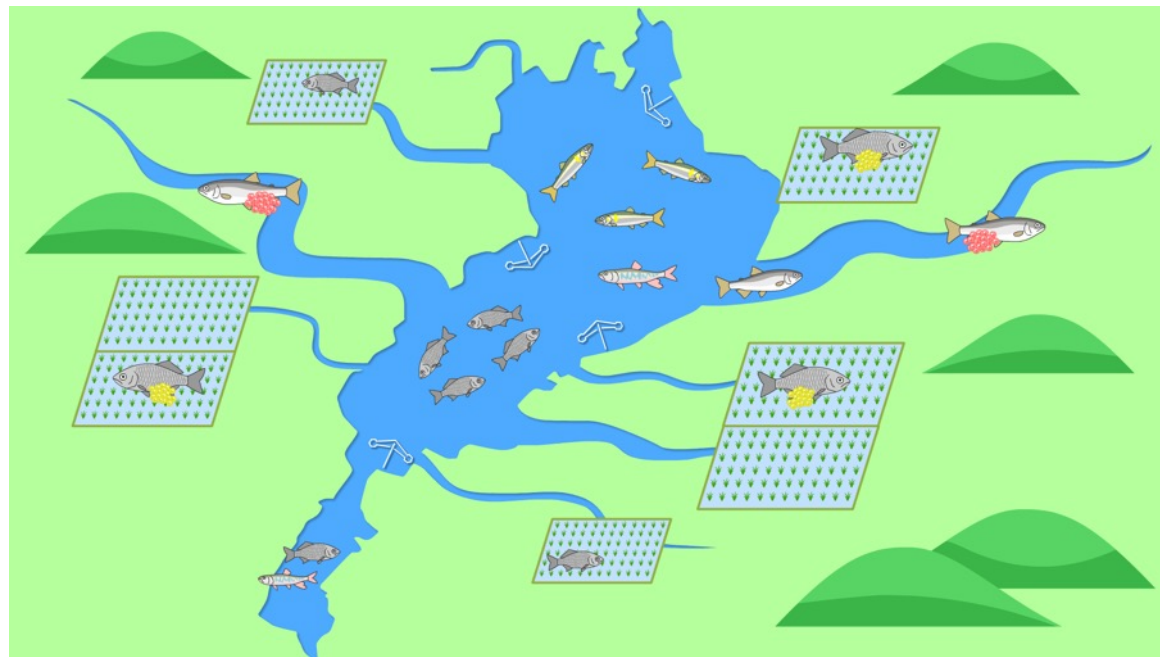
い さん
「つながり」の農業遺産
し が けん び わ こ
滋賀県の琵琶湖システム



森・里・湖(うみ)に育まれる漁業と農業が織りなす「琵琶湖システム」

1000年以上にわたって受けつがれてきた琵琶湖にすむ魚と共生する農林水産業。

豊かな恵みをもたらす湖と田んぼと森の深いつながりが「琵琶湖システム」として世界農業遺産・日本農業遺産に認定されています。

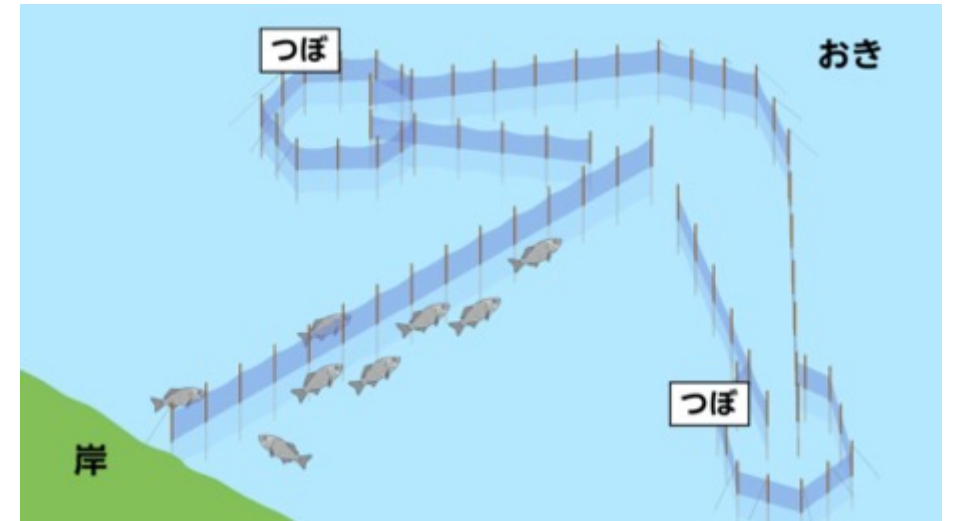


エリ漁の仕組み

湖と田んぼと森、それぞれを見てみよう！

【琵琶湖】の伝統的な漁 エリ漁

「エリ」は湖に仕掛けられた網のことです。
「エリ漁」は、何かにつかると沖に逃げる魚の習性を利用して、魚が網に入るのを待つ漁です。



漁師は夜明け前にエリに船をつけ、網を上げる



琵琶湖にはここにしかいない魚が多くすんでいる



ニゴロブナ (約30cm)



ホンモロコ (約10cm)

画像提供：国立環境研究所琵琶湖分室

魚のゆりかご水田

びわこ 琵琶湖につながる【田んぼ】

琵琶湖の魚の中には、田んぼで産卵^{さんらん}し、大きくなると湖に戻^{もど}っていくものがいます。

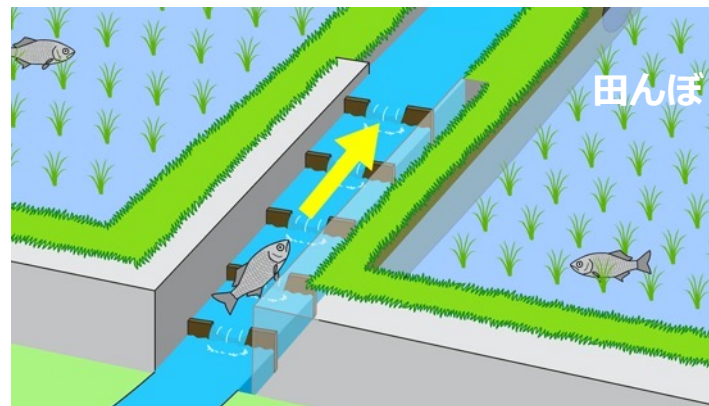
魚が田んぼで産卵できるように、農家の人々が魚の通り道「魚道」^{ぎょどう}を作る活動を続^{つづ}けています。



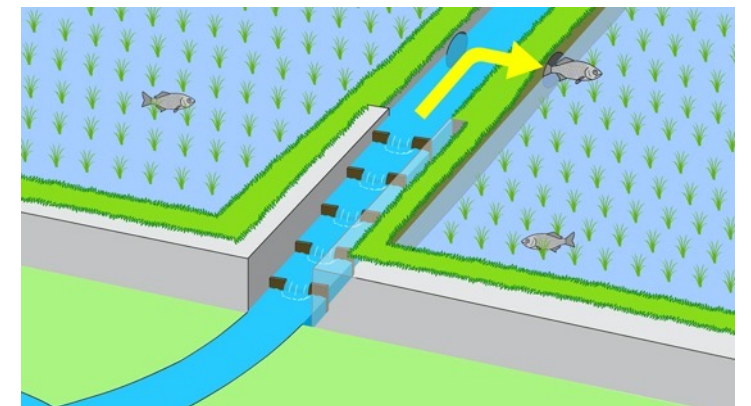
滋賀県高島市の「魚道」設置作業

ぎょどう 魚道

田んぼから琵琶湖につながる水路の一部を階^{かい}段^{だんじょう}状にした魚道^{せっち}を設置することで、琵琶湖から湖魚が田んぼに入ることができます。



琵琶湖



湖を守るための植林活動

森を育てる取組

周囲の森は雨水をたくわえて、^{えいようほうふ}栄養豊富な地下水を作ります。地下水は川を流れて琵琶湖に注ぎ、魚などを育てます。そこで、^{ゆた}豊かな地下水を絶やさないように、^{りょうし}漁師が中心となり^{ちいき}地域の人々が^{いっしょ}一緒になって森を育てています。



植林：コナラなどの広葉樹を植える取組を行っている



植えた苗木が成長した様子

びわこちいき
琵琶湖地域の食文化 ふなずし

湖と田んぼと森が関係しあう琵琶湖地域では、
特徴的な食文化も受けついでいます。「ふなずし」は、琵琶湖でとれたニゴロブナを米に漬けて
こんで発酵させる、滋賀県の伝統食です。

貴重な保存食になるほか、来客をもてなすごち
そうや祭礼のお供えとして作られてきました。



いさん にんてい こうか 農業遺産認定の効果

農業遺産に認定されると・・・

ちいき こゆう のうりんすいさんぎょう かけ みと
地域固有の農林水産業の価値が認められることで、地域の人々の誇りと自信につながります。
かんこう かつせいか
農林水産物のブランド化や観光などにより、地域の活性化も期待されます。

とりくみれい 取組例

農業遺産の米作りを知ってもらう 「田植え体験」 たいけん



(野洲市せせらぎの郷の「魚のゆりかご水田」)

ブランド化や6次産業化による活性化



「魚のゆりかご水田米」の販売



「魚のゆりかご水田米」で
つくったお酒



湖魚の加工、販売
(沖島漁業組合「湖島婦貴
(ことぶき)の会」)



みやぎけん たかちほごう しいばやま ちいき
宮崎県高千穂郷・椎葉山地域



高千穂郷・椎葉山の「山間地農林業複合システム」

この地域では、森林の恵みを持続的に利用しながら、木材、和牛、茶、米の生産、焼き畑などを組み合わせた農林業が営まれています。

五穀豊穰を願い奉納される「神楽」(p.25を参照)は、地域の絆の象徴として大切に受け継がれています。



平地が少ないこの地域では、農家がいくつもの農業を組み合わせた「複合経営」で生計を立てています。

ふくごうけいえい れい
複合経営の例

もくざい せいさん
林業 (木材を生産)



さいばい
シイタケ栽培



やはた
焼き畑 (ソバや大豆などの生産)



和牛の生産



米作り



お茶栽培



焼き畑 (ソバや大豆などの生産)

焼き畑

森林の一部を伐採し、焼いて畑にする農法です。



焼き畑のサイクル

畑を焼いた後、最初の年はソバを育て、2年目はヒエ、3年目はアズキ、4年目はダイズを育てます。その後は畑を休ませて20~30年かけて森林に戻します。森を守りながら使う、持続可能な農業の知恵です。

米を作るための努力—山腹用水路

さんぶく ようすいろ

米を作るための人々の努力

どりよく

田んぼは平らな場所をあぜで^{かこ}囲い、そこに水を入れて^{いね}稲を育てます。しかし、高い山の^{しゃめん}斜面には平らな土地がありません。人々は斜面を削り、平らな場所を作りました。しかし、そこに引き入れる水を深い谷から水をくみ上げることはできませんでした。そこで、村の人々は力を合わせて遠くの山から水を引く用水路を作りました。用水路の^{けんせつ}建設は手作業で数十年もの月日がかかりました。

用水路は現在も大切に使われ、^{ちいき}地域の米作りを支えています。



山の上の^{たなだ}棚田（^{せんじん}仙人の棚田）



長さ500kmにおよぶ山腹用水路
（東京—大阪間とほぼ同じ距離）

ついでんとう
受け継がれる伝統文化

ちいき
この地域では、毎年12月に神に舞をささげる「神楽」が代々受け継がれています。
ごこくほうじょう
「神楽」は五穀豊穰（こく物が十分に育つこと）を願って神に奉納する舞で、地域
ねが ほうのう まい
の人たちの暮らしの一部になっています。「神楽」は厳しい自然の中で、力を合わ
く しぜん
せて農林業を営む地域ならではの強い連帯感を象ちようしています。
いとな れんたい しょう





ちいき いさん
いろいろな地域の農業遺産 調べてみてね！

